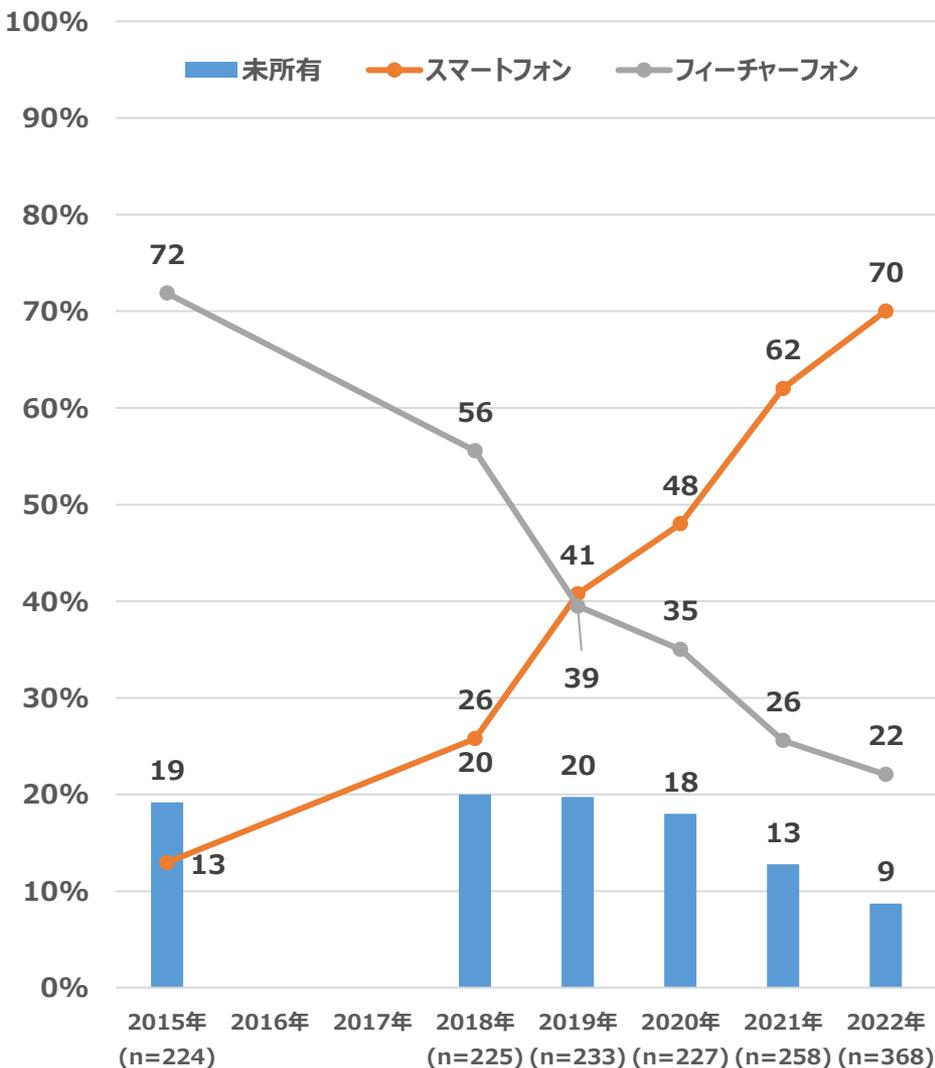
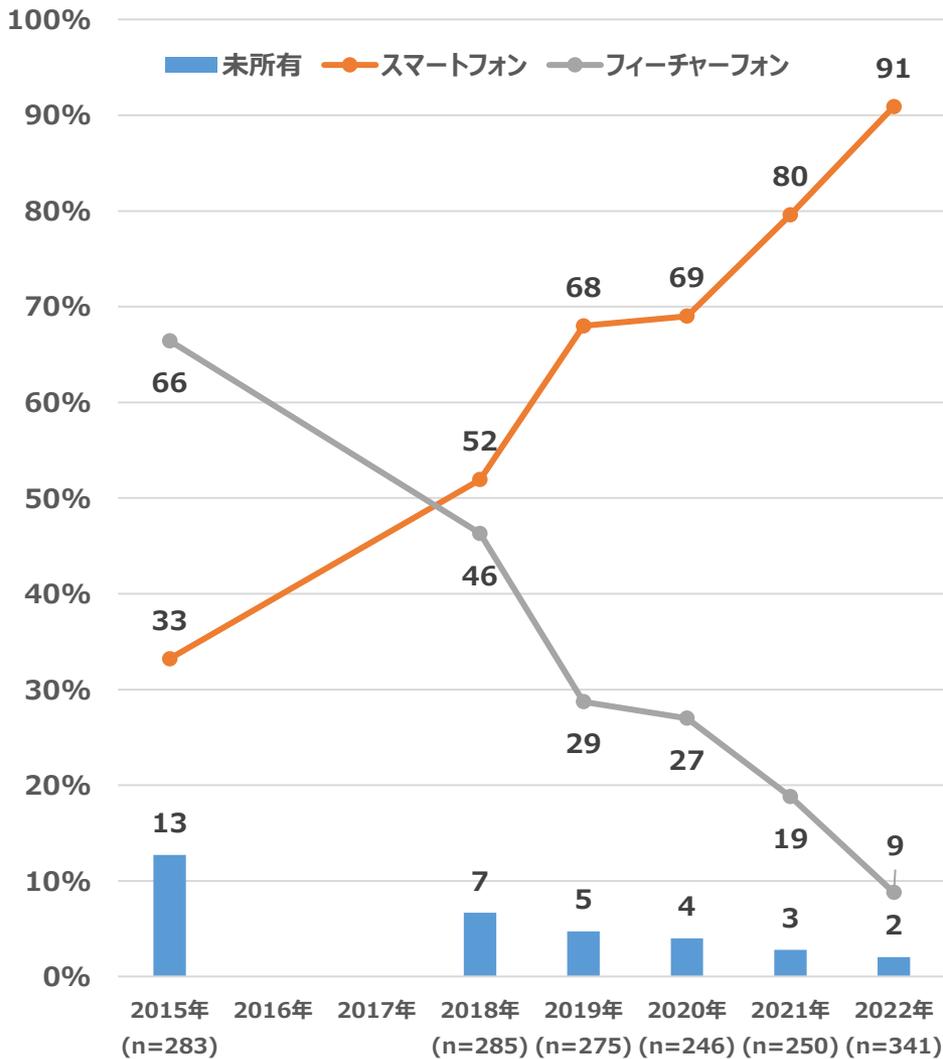


ICTサービスの利用によって生じた「情報格差」が及ぼした  
「生活の変化」について:年代間、シニア間の差を定量調査で分析

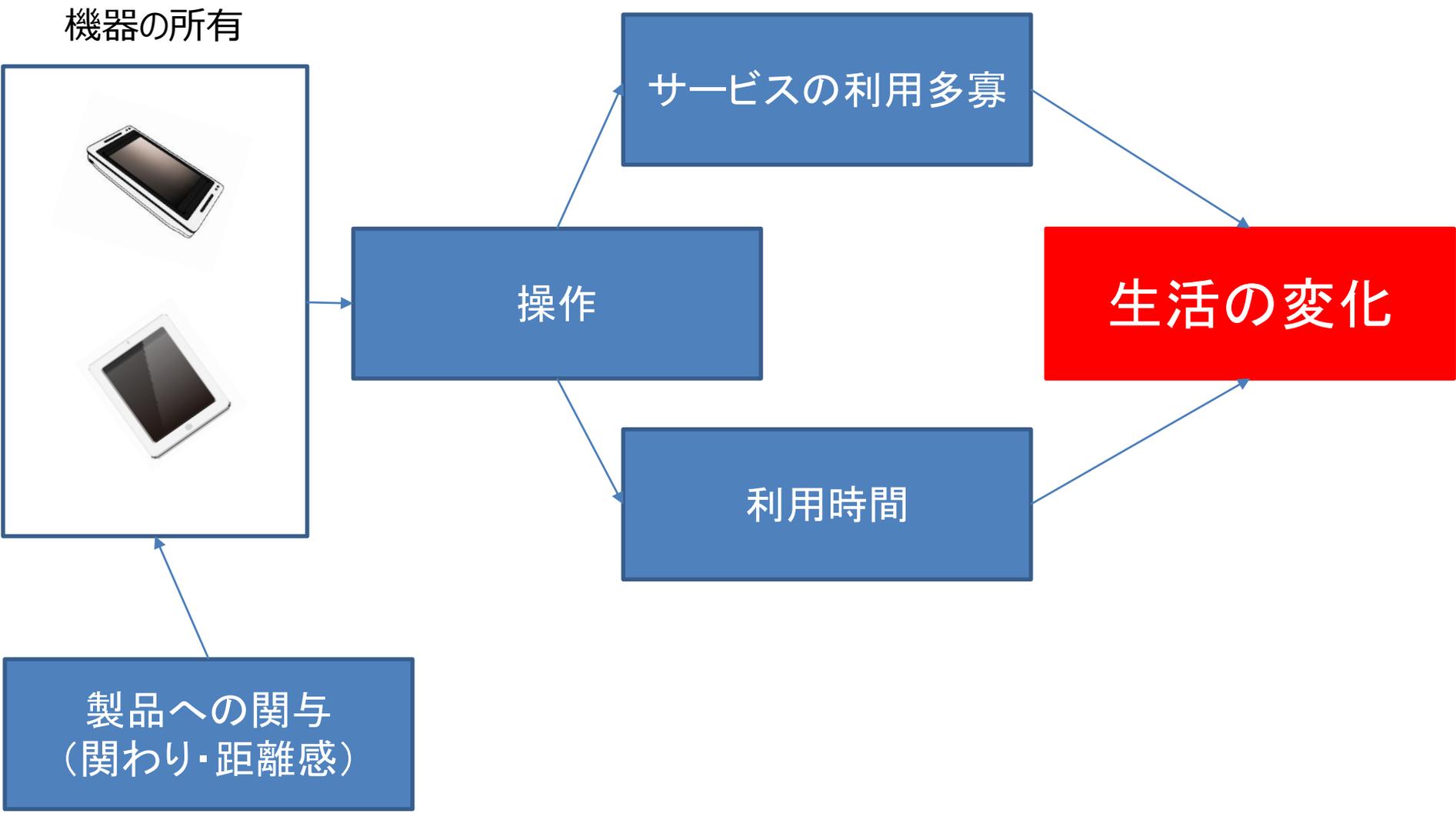
- 水野 一成 (株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所)
- 近藤 勢津子 (株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所)
- 吉良 文夫 (株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所)

60代

70代



ICTサービス利用



## 目的

スマホの普及率が8割に達している。利活用を見ると、所有者がICTサービスを使っているわけではない。



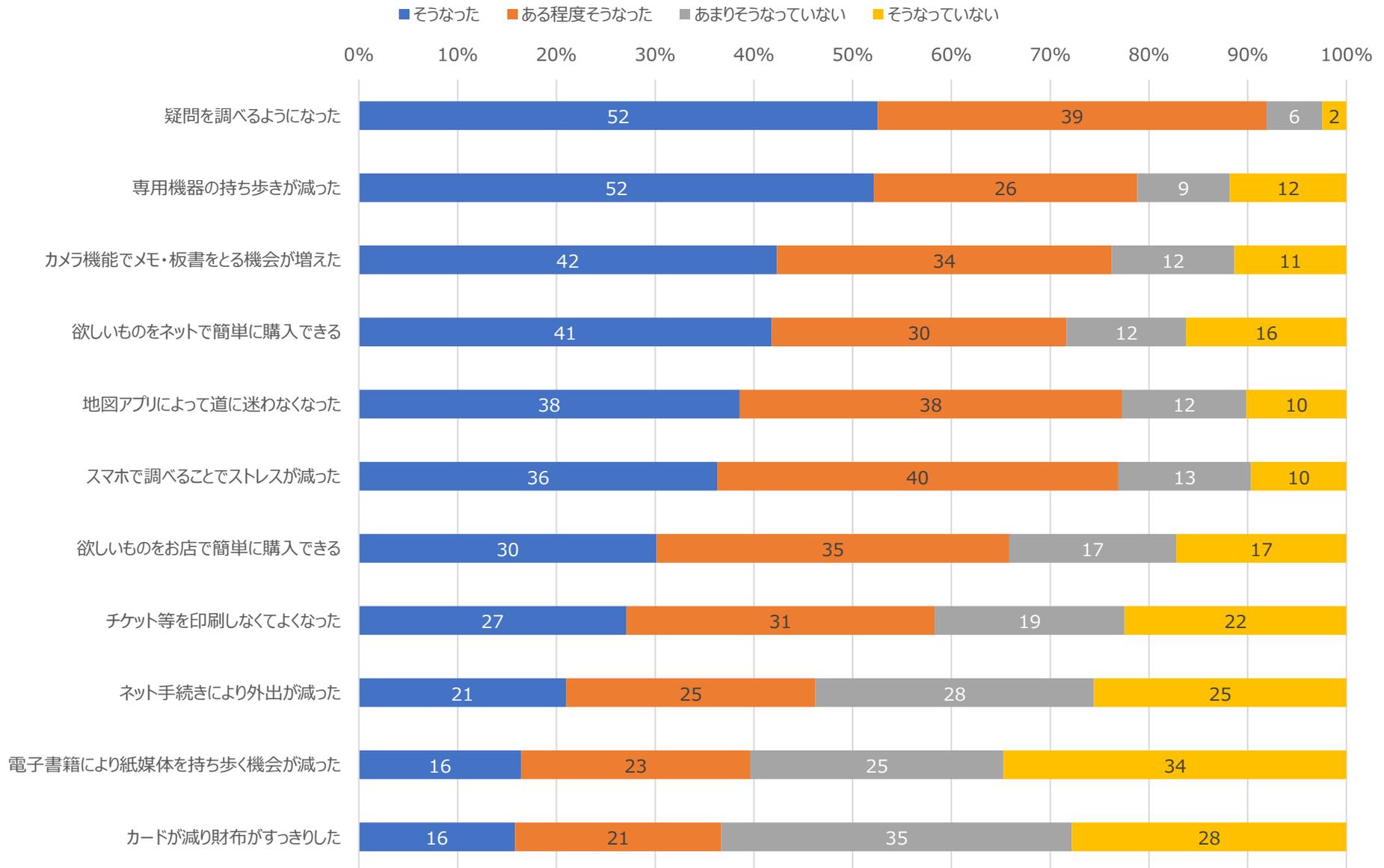
ICTサービスを利用したことによる「生活の変化」を見ることで情報格差を「年代間」「シニア間」で定量的に観察する

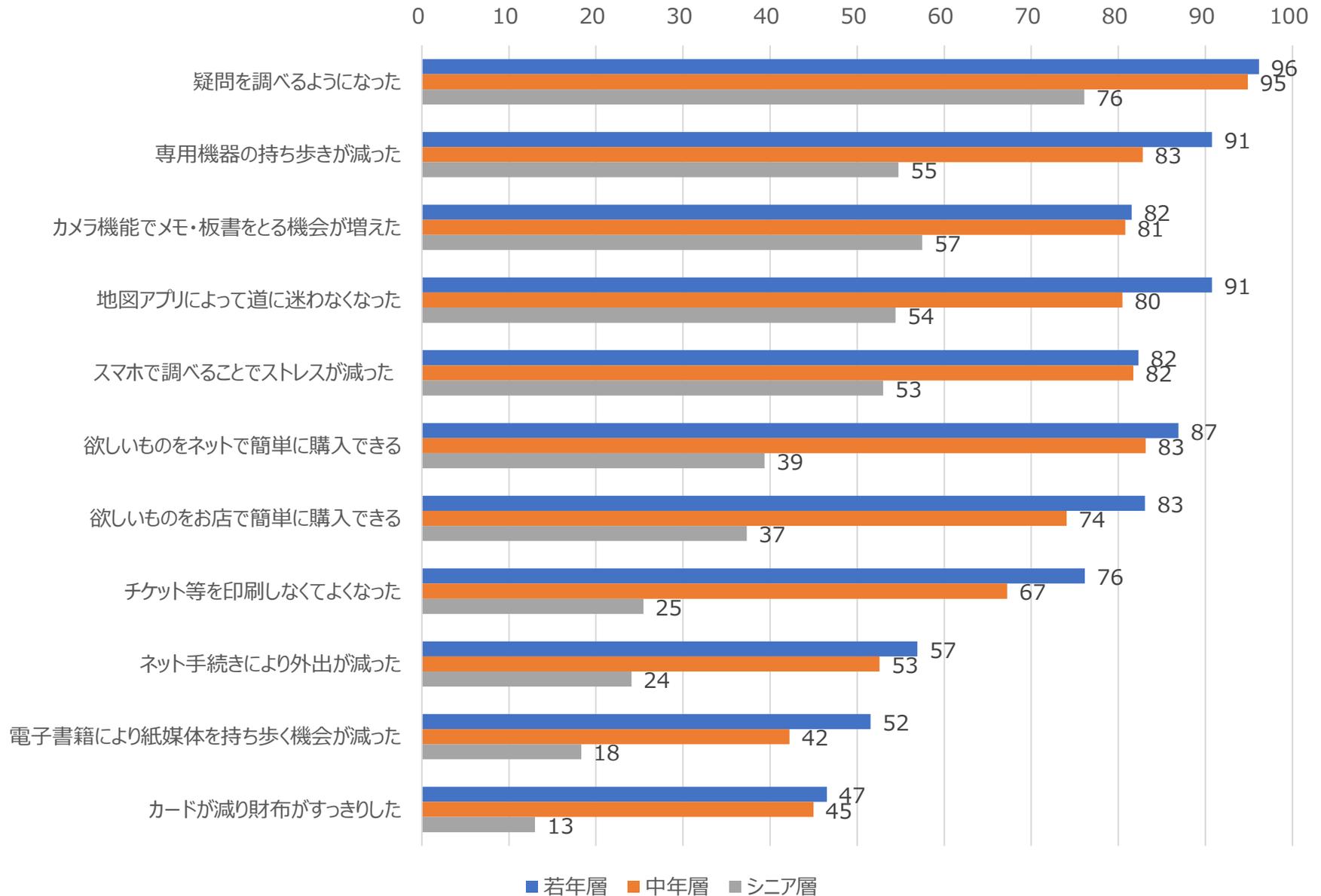
## 調査概要

調査時期	2022.1
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東1都6県 15歳～79歳の男女
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・年齢・都市規模で割付
サンプル数	700

## 倫理的配慮

調査票作成にあたり、研究所内で審議を経ている。その際、指導的役割の専門家より十分な指導を受けている。回答データは統計的処理をし、個人を特定しないこと、調査は強制ではなく調査員が調査内容の説明の上、了承を得ている。





## 「ペーパーレス」「情報」「購買」の3因子を抽出（全年代と同じ）

### 回転後の因子行列<sup>a</sup>

	因子		
	情報	ペーパーレス	購買
c.スマホで調べることでストレスが減った	0.62	0.21	0.36
j.地図アプリによって道に迷わなくなった	0.62	0.37	0.17
a.疑問を調べるようになった	0.61	0.08	0.32
k.カメラ機能でメモ・板書をとる機会が増えた	0.59	0.39	0.15
f.専用機器の持ち歩きが減った	0.48	0.43	0.22
g.カードが減り財布がすっきりした	0.17	0.68	0.34
h.電子書籍により紙媒体を持ち歩く機会が減った	0.23	0.64	0.15
i.チケット等を印刷しなくてよくなった	0.33	0.63	0.33
d.欲しいものをネットで簡単に購入できる	0.31	0.33	0.79
e.欲しいものをお店で簡単に購入できる	0.38	0.31	0.69
b.ネット手続きにより外出が減った	0.27	0.43	0.46

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 8 回の反復で回転が収束しました。

## 3因子を基に4つのクラスタに分類

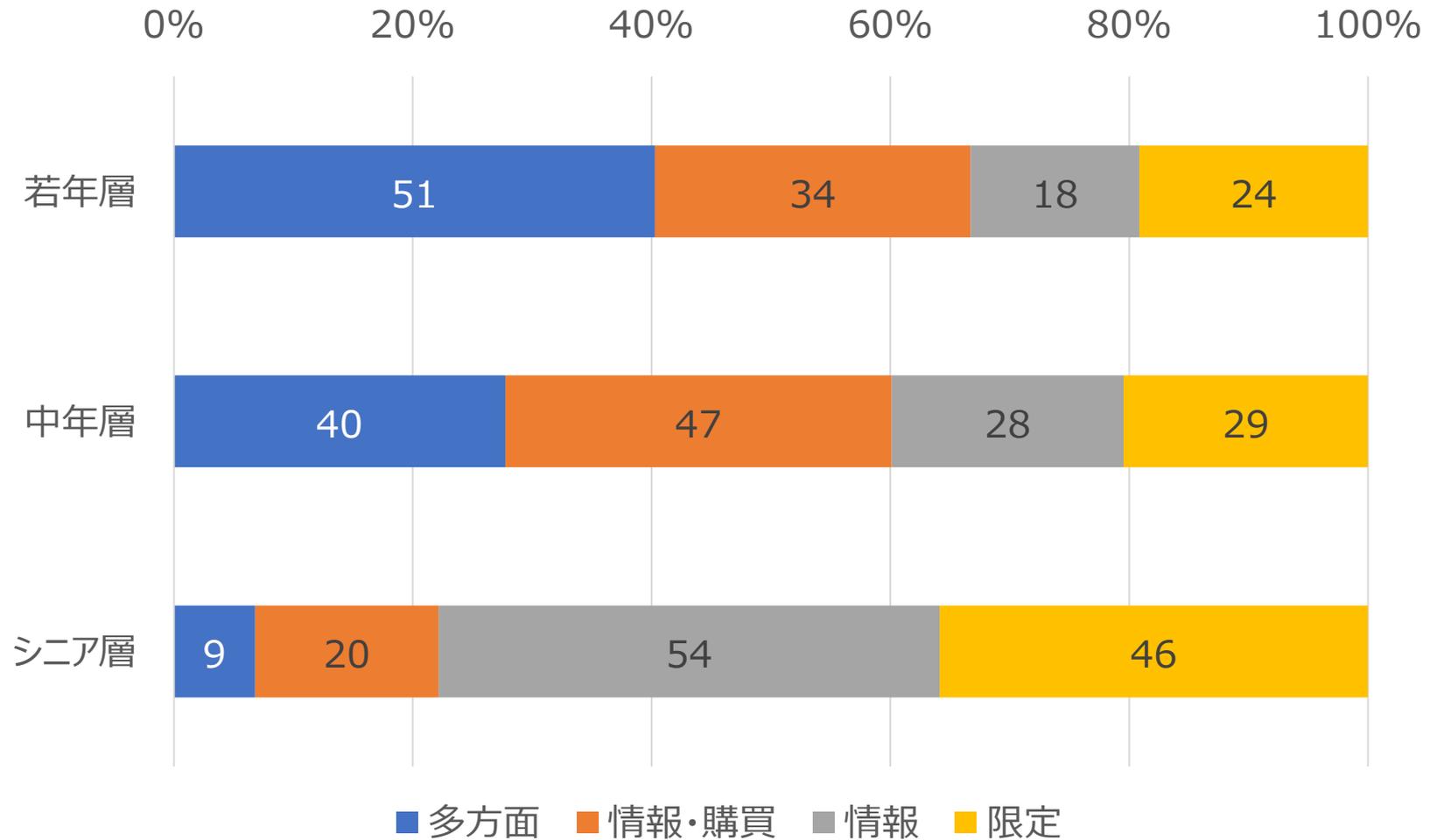
	クラスタ			
	多方面	情報・購買	情報	限定
情報	0.19	0.44	0.22	-1.27
ペーパーレス	0.86	-0.46	-0.39	-0.56
購買	0.31	0.60	-1.35	-0.27
構成比	35.3	29.0	17.2	18.4

シニア層は「多方面」「情報・購買」が少なく、「情報」「限定」が多い。

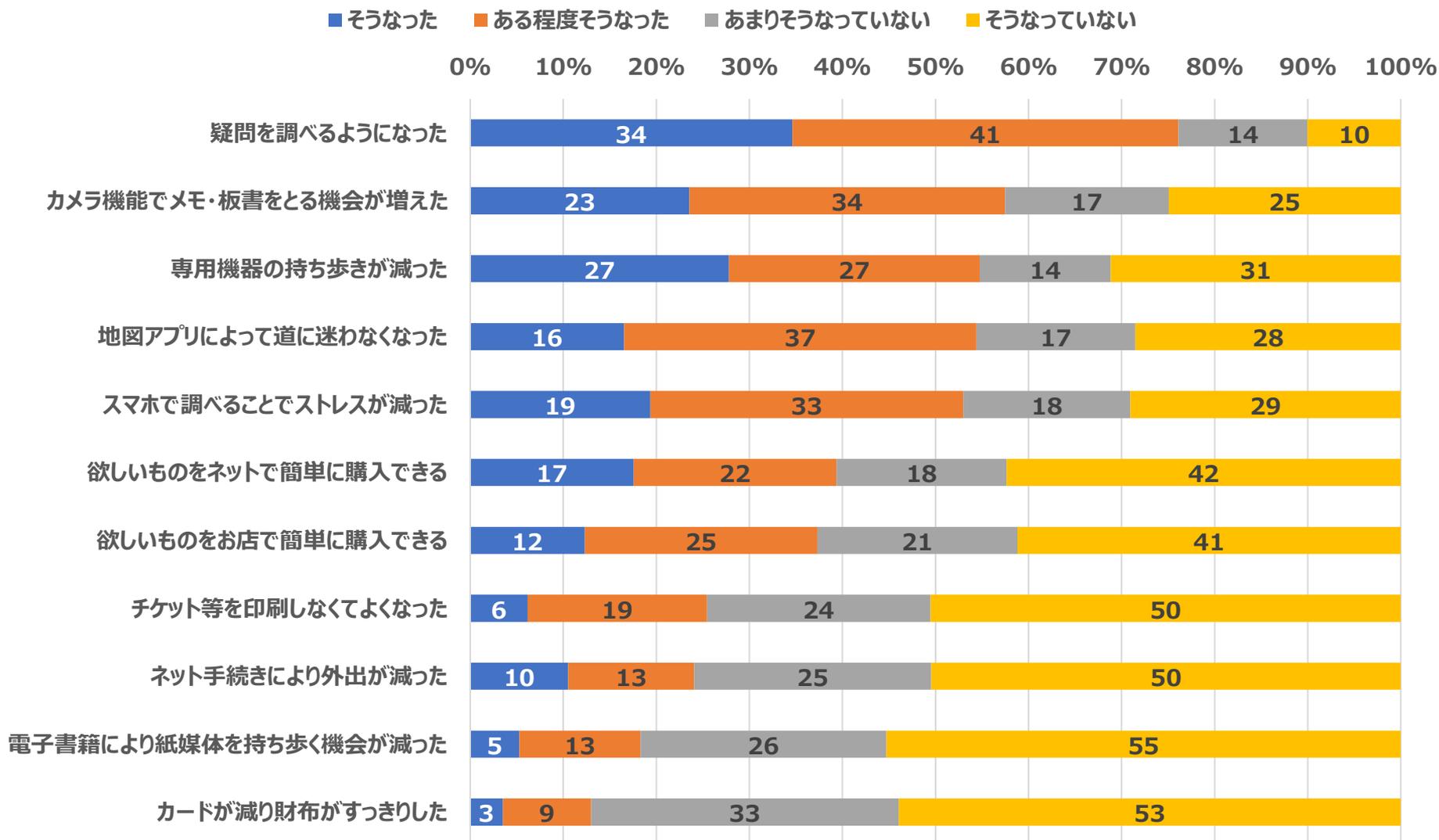
		若年層	中年層	シニア層
多方面	度数	117	91	20
	構成比	51%***	37%	12%***
情報・購買	度数	63	87	37
	構成比	28%	36%**	22%*
情報	度数	20	31	60
	構成比	9%***	13%*	35%***
限定	度数	29	35	55
	構成比	13%**	14%*	32%***

■ 有意に多い ■ 有意に少ない \*\*\* < 0.001 \*\* < 0.01 \* < 0.05

## 若・中年層にも「限定」が2割強存在する。



## 生活の変化が大きいのは「情報」に関連している



「ペーパーレス」「情報」「購買」の3因子を抽出（全年代と同じ）

	因子		
	ペーパーレス	情報	購買
h.電子書籍により紙媒体を持ち歩く機会が減った	<b>0.67</b>	0.14	0.13
g.カードが減り財布がすっきりした	<b>0.65</b>	0.17	0.30
i.チケット等を印刷しなくてよかった	<b>0.62</b>	0.31	0.26
f.専用機器の持ち歩きが減った	<b>0.44</b>	0.39	0.19
c.スマホで調べることでストレスが減った	0.20	<b>0.62</b>	0.32
a.疑問を調べるようになった	0.08	<b>0.60</b>	0.26
j.地図アプリによって道に迷わなくなった	0.39	<b>0.55</b>	0.17
k.カメラ機能でメモ・板書をとる機会が増えた	0.40	<b>0.54</b>	0.15
d.欲しいものをネットで簡単に購入できる	0.24	0.27	<b>0.80</b>
e.欲しいものをお店で簡単に購入できる	0.27	0.37	<b>0.63</b>
b.ネット手続きにより外出が減った	0.37	0.23	<b>0.42</b>

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 7 回の反復で回転が収束しました。

## 3因子を基に4つのクラスタに分類

		多方派	情報・購買派	情報派	限定派
因子	情報	0.39	0.23	0.69	-0.96
	ペーパーレス	1.12	-0.45	-0.20	-0.32
	購買	0.64	0.98	-0.77	-0.43
構成比		22.0	20.0	32.3	25.7

「多方面」と「情報・購買」 設定アプリ・個別アプリの変更  
「情報・購買」と「情報」 アプリのダウンロード  
「情報」と「限定」 初期設定アプリの活用

	多方	情報・ 購買	情報	限定	平均
メールやメッセージを送ること	96	95	96	84	92
カメラを使って写真や動画を撮影	93	96	93	79	89
電話帳の設定	87	86	85	67	80
インターネットを使って情報を検索	96	95	84	52	79
アプリのダウンロードや削除	75	75	57	28	56
Wi-Fiに接続すること	77	63	51	25	51
メールやメッセージの受信拒否設定	66	52	41	18	42
位置情報のON/OFF設定の仕方	66	54	33	14	39
写真を編集・加工すること	55	35	21	7	27

## ICT利用による生活への変化

全年代での分析  
年代間格差を確認 どの年代でも「限定派」が一定する存在

シニア層だけで再分析  
多くの生活シーンで変化を感じている層から、ほとんど感じていない層まで存在

シニア層 クラスタ間ではスマホの機能活用による差異が生じている

## 本結果を通じて

ICT利用による「生活の変化」は年代間差、シニア層内での差が生じている  
シニアにおいては「スマホの機能活用」との関連も見られた

このような差は「経済損失」「機会損失」「災害情報」においても  
どのような影響を感じているか、今後も調査を通じて明らかにしていきたい

- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)

<経年変化:2010年~>

子どものICT

シニアのICT

5G/ニューノーマル

防災・減災のICT

パーソナルデータ意識

情報発信

影の縮小

【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2020>



(書籍・電子書籍)

連携

<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>

連携

メディア掲載・データ引用・意見交換会等